



申26号 組合員・家族の生活を守り、将来へのモチベーションの維持・向上を実現するための、2022年度賃金引上げ等に関する

緊急再申し入れ その①

本日、「緊急再申し入れ」を提出！ 以下、申し入れ内容

JR東労組申第22号「2022年度賃金引上げ等に関する申し入れ」の第3回団体交渉は、回答指定日である3月17日に開催し、会社から申22号に対する回答が示されました。

その内容は、定期昇給については要求通り「昇給係数4」の完全実施を確認できたものの、ベースアップゼロ回答の他、昨年の定昇カット分への支給、第二基本給の凍結、65歳定年制導入についても要求の実現には至りませんでした。また、その他の処遇改善などの回答もなく、私たちの要求からは、大きく乖離し到底納得できる回答ではありませんでした。したがって、第3回団体交渉席上で再考を強く求めるも受け入れられなかったため、席上妥結せず回答を持ち帰り、今日まで組織内で議論してきました。

第2回団体交渉では、「会社発足以来、過去最低の総額人件費」「中長期的な回復動向」「運輸収入が計画を290億円上回った」「物価の上昇」「社会保険料の負担増」「年収減」など一定の認識一致をはかり、「コロナ禍における職場の努力には感謝する」「組合員の声を受け止める」などと回答するも、第3回団体交渉では終始「最大限出来る回答」としながらも、要求からは大きくかけ離れたものであり、到底納得できるものではありません。

申22号の会社回答に対して、職場からは「昇給係数4の完全実施は確認できるが当然実施すべきことであり、ベアと定昇は別である」「コロナ禍や物価上昇の生活実感に重きをおいていない」「55歳以上の組合員の奮闘に一切報いていない」「生涯賃金に影響を及ぼした昨年の定昇カット分の支給をすべき」「人材流出への危機感を感じない」「労働者に赤字の責任を転嫁するのか」「回答書には地震による復旧対応にあたる組合員に対して何も触れられていない」「あらかじめ用意された冷たい回答と感じる」など、会社回答に対する不信や不満、生活や将来を不安視する声が多く中央本部に届いています。

団体交渉でも「ベアと定昇は別である」と一貫した姿勢で議論してきましたが、年初にマスコミ報道された経営幹部の発言や第1回交渉以降の会社回答からは、賃上げ議論を定期昇給議論に切り縮めるかのような姿勢に危機感を覚えます。コロナ禍で業績の落ち込みはあるものの、生涯賃金が減額されている状況と物価上昇などある中で、組合員・社員に犠牲を強いるかのような会社回答は納得できません。

また、3月16日に発生した「福島県沖地震」の復旧作業は困難を極める中、昼夜問わず全力を注ぐJR東日本のすべての関係者に心から敬意を表するとともに、JR東労組は組合員・社員の安全と健康の確保を第一に、復旧作業に最大限協力する姿勢は変わりません。組合員・社員は、鉄道の復旧と安全第一で安定した輸送の確保に向けてこの時間も奮闘しています。

したがって、日々弛まぬ奮闘をし続ける組合員・社員の努力に報い、家族を含めた生活を守り、将来へのモチベーションの維持・向上の実現を目指し、下記のとおり申し入れますので、会社の真摯かつ速やかな回答を要請します。

1. 年収減や生涯賃金が減額されている状況下における、物価上昇、保険料の負担増が見込まれる生活実感と、震災復旧や安全第一で安定した輸送の確保に向け、コロナ禍においても、日々弛まぬ奮闘をし続ける組合員・社員の努力に報い、モチベーションの維持・向上による人材の定着・確保を実現するため、以下の内容を追加実施すること。

- ① 2022年4月1日以降のJR東労組組合員の基本給を一律6,000円(定期昇給を含まない)引き上げること。
- ② 2022年4月1日以降のエルダー組合員の基本賃金を6,000円引き上げること。
- ③ 2021年4月1日に実施した、満55歳未満(当時)の組合員に対する定期昇給のカット分を別途支給すること。

全組合員で「再申し入れ」の読み合わせを行おう！